今、高校生が考える生成AIとの付き合い方　ー「誤情報・偽情報」を超えた活用法を考えるー

開催地：　サミット　　グループ：　　3班　　2024.11.03

共生をするために
自分たちにできることと
AIに求める事

情報と向き合う力

新教育プログラム

- 情報と向き合う力を育む必要がある
  ↪授業の一環で「対論」する授業を増やす
- 子供だけでなく大人にも
  ↪「研修」という形で各企業へ推進する

クロスチェック

・教育一環として授業で「クロスチェック」
　を実践させる。

↪自分でも様々な情報源を用意して比較する。

AIに関する法律を作る

生成AIに関する法律

AIマークの付与を強制する

↪著作権法違反、人権侵害、偽情報の流布
などをを防ぐ。

EUで運用されている法律

図表1：リスクベースでのAI分類

リスクの分類（EUの規制案に基づく例）

リスクレベル	リスクレベルの概要
1 許容できないリスク	● 人の生命や基本的人権に対して、直接的に脅威をもたらすと考えられるAIシステム ● 不利な扱いとされる社会的格付け、危険な行動を促す音声アシストなどが挙げられる
2 ハイリスク	● 人の健康や安全、基本的人権、または社会的／経済的な利益に影響を与える可能性があるAIシステム ● 製品のセーフティコンポーネント、雇用・労働者の管理、「警察や消防への緊急通報に関するAIシステム等」の必要となる公共・民間サービスなど
3 特定の透明性が必要なリスク	● 深刻なリスクはないが、透明性に関する特定の要件を満たす必要があるAIシステム ● コンテンツや応答が、対話型AIによって生成されたことを明らかにする要件などが挙げられる
4 最小リスク	● リスクがごくわずか、またはリスクの伴わないAIシステム

参考文献

監査品質に関する報告書（🔗）
PwC Japan

提言

新教育プログラムの設立

生成AIに関する法律を作る

参考文献

監査品質に関する報告書（🔗）PwC Japan